

所属・資格 情報科学科・准教授

申請者氏名 大澤 正彦

研究課題		人と相互適応するエージェントの研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、人とエージェントの相互適応がより安定的に引き起こされるための方法論を確立することである。ここでエージェントとは、ロボットやCGキャラクタ、チャットボットに代表される、擬人化される人工物の総称である。本年度は2つの取り組みを実施する。1つは、エージェントが人と相互適応するための知的システムアーキテクチャの開発である。もう1つは、実際のエージェントと人とのインタラクションに関する研究である。
	研究の結果	エージェントが人と相互適応するための知的システムアーキテクチャについては、昨年度までの主な成果を今年度さらに発展させた。我々は大規模言語モデルと他者モデルを統合する新たな手法を提案し、これまで大規模言語モデルが苦手としていた「言外の意味を察する」対話を実現できる可能性を示唆した。具体的には、他者モデルに大規模言語モデルを組み込むLECという手法と、大規模言語モデルに他者モデルを組み込むCELという手法をそれぞれ提案し、LECにおいて性能向上が確認された。この成果を引き続き洗練させることで、実験結果の信頼性の向上やより発展的なタスクへの適用、実用化などさまざまな目的の取り組みを行なっており、令和7年度科学研究費助成事業若手研究に採択された。 実際のエージェントと人のインタラクションに関する研究では、ロボットの停止状態が人にネガティブな印象を与える可能性を指摘し、エージェントの魂がロボットから抜けてから停止するというデザインがこの問題を解消する可能性について検討した。
	研究の考察・反省	研究成果は順調に上がっており、去年度の研究成果に基づく複数の研究費獲得に成功している。例えば、企業との共同研究で本研究の社会実装にあたる取り組みが行われ、文理学部情報科学研究所総合研究にて日本語で行われた本研究を多言語で行う取り組みが進められており、それぞれ大きな成果が生まれている。また、前述の通り来年度からの科研費獲得にもつながった。本研究の取り組みを通してより大きな研究費獲得につなげているため、この研究費を有効活用できていると自負している。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>[査読あり] 木村 光来, 福田 聡子, 大森 隆司, 大澤 正彦, “ロボットの停止状態におけるマイナスの印象の回避を目的としたエージェントデザインの提案”, 日本認知科学会 全国大会, pp.476-479, 2024年10月13日 / 東京.</p>	